

## 語ろう！with/after コロナにおける老年看護実践・教育の挑戦

### 第2回 語ろう！After コロナの高齢者ケア・認知症ケアへのチャレンジ

～新型コロナウイルス感染症パンデミックから学んだ高齢者ケア・認知症ケアで大切にしたいこと～

日時：2022年1月15日（土）14：00～16：00，オンライン開催

参加人数：58人（申し込み：64名，欠席：6名）

アンケート方法：Google Formsを使用したWebアンケート

アンケート回答数：52名（2022年1月27日時点） アンケート回答率：89.7%

回答者の勤務先：病院41名，大学や専門学校等の教育機関6名，在宅事業所1名，その他4名

#### 1. アンケート結果

- 1) 研修を知ったきっかけ（複数回答可）：「日本老年看護学会のホームページ」36%，「メールマガジン」25%，「役員・代議員からの紹介」16%，「会員からの紹介」12%，「代議員・会員宛のメール」11%であった。
- 2) 研修は期待通りだったか：「期待以上に良かった」69%，「期待通りだった」29%，「期待通りではなかった」2%であった。期待以上及び期待通りだった理由は、「語り合うことで意見交換・情報共有できた」「コロナ禍での実践の学び・気づきになった」「明日への活力になった」「自分を振り返る機会となった」，期待通りでなかった理由は、「緊張するから」であった。
- 3) 明日からチャレンジしようと思うこと：「高齢者の気持ちを聴く」「高齢者が心地よく過ごせるようにする」「今できることを考える」「スタッフを大切にする」「高齢者の不安を和らげる」「日々のケアを積み重ねる」「家族と会ってもらうことを意識する」「根拠をもったケアを提供する」「できることから実践する」「ロボットを活用したい」であった。
- 4) 今後も会員同士が語り合う企画を希望するか：「希望する」98%，「希望しない」2%であった。希望する理由は、「語り合う機会が少ない」「有意義な意見交換ができる」「ケアのヒントが得られる」「普段と違うメンバーと交流できる」「DCN/CNSの交流ができる」，希望しない理由は、「緊張するため」であった。希望する研修内容は、「認知症ケア」「高齢者看護」「語り合い」「意思決定支援」「コロナ禍のケア」「人材育成」「学生の教育」「ACP」「身体拘束」などが挙げられた。
- 5) その他の意見：「充実した企画内容であった」「元気をもらえた」「充実したグループワークであった」などであった。

#### 2. 総括

アンケートの結果、「語り合い」について肯定的な意見が多く，参加満足度が高かった。職場以外の人と語り合う機会が減っている中，オンラインであっても顔を合わせて語り合うことでつながりを感じられたこと，またリフレクションの機会となり，参加者の需要と合致していたのではないかと考えられる。実践している高齢者ケアについて，話題提供からグループワークまで参加者が前向きに語り合えるように企画したことで，高い満足度が得られたのではないかと考えられる。一方，少数意見ではあるが「緊張した」と回答した参加者もあり，CN/CNSが多く参加する中で，互いに認定資格や職位等の壁を取り払い，語り合うために，予めルールを決めて周知するなど，さらなる工夫が必要であると考えられる。

以上

作成者：相場健一・立原怜・古屋曜子